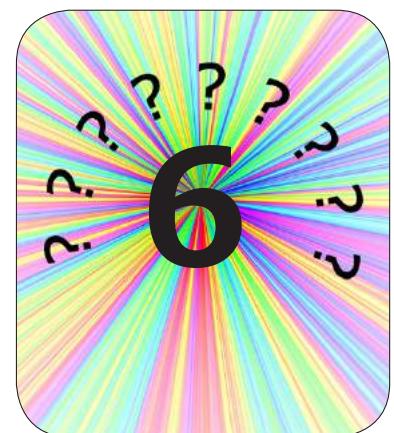


Media Pages



六感に伝えるメディアを学ぶ。



食べて！話して！
素敵な仲間を見つけよう！♥

さがじょメディア
ようこそ！

Event: 1年生歓迎会

毎年メディア情報学科では、5月に1年生歓迎会を開催しています。歓迎会では、からあげ、ポテト、サラダ、お寿司、ケーキなどのたくさんの料理とスイーツが出されます。お昼休みの時間なので、放課後にアルバイトやサークルがある人でも、気軽に参加することができます。メディア情報学科の先生もこられるので、授業やゼミのことについても聞くことができますよ。この機会に話したことのない友達とも、仲良くなるチャンスです！楽しく食事をしながら、いろんな人たちと関わる充実した時間になると思います。

入学したらぜひ参加してみてください！



香るメディアは未来を開く！？

ヨーロッパの文化に詳しい坂本先生の話



どのような授業を担当しているのですか？

「メディアと文学」、「文章表現」、「メディアの国語」、語学では「フランス語」です。

私の授業では自分で表現するときに、” こういう技術が必要なんだ” ということではなくて、どうしたら豊かな表現ができる、みんなによりよく伝わるか” ということを勉強します。

卒業研究は何についてやっているのですか？

ディズニーのことや、今の4年生はファッショントリートについてやる予定です。

どのようなファッショントリートについてやるんですか？

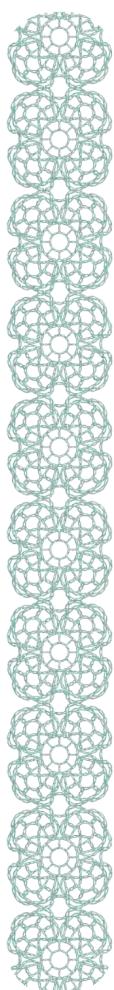
ヨーロッパのファッショントリートで、シャネルのことについてもやっています。

シャネルにはこだわりがあって、例えば香水は花そのものの香りではなく、化学物質を入れて抽象的にし、何の香りなのか分からないようにして、瓶も薬品のような形のものにしたのですよ。当時の芸術全体が抽象的な方向に向かっていて、シャネルはそのスタイルをつくりだしました。フランスのオシャレはシャネルからすごく影響を受けているのですよ。

香水はメディアなのでしょうか？

香水はもちろんメディアです。

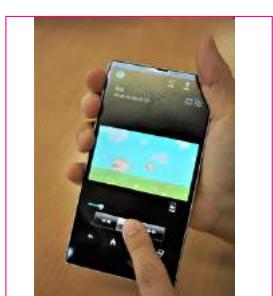
広告やCMなど沢山ありますが、匂いは伝えられないんです。文章や、女優さんや音楽を使ったりして伝えるのです。香水はブランドの服全体を代表したり、香水を使う人のイメージや言いたいことを代表したりします。イメージを喚起するエッセンスでしかなく、何かに変換しないと絶対に伝えられないですが、メディアとして機能する存在です。



触って、感じて、
自分だけの作品を作ろう！



「メディアの制作室に行こう！」



「動画編集しよう」「コンピュータグラフィックスの課題しなくちゃ」「4限まで授業ないからペンタブを使って絵を描こう」「カメラ借りにいこう」「4号館の制作室に行こう！」
4号館はメディア情報学科専用の教室です。MacとWindowsのパソコン、ペンタブ、一眼レフのカメラ、マイクなど、さまざまな電子機器が置いてあります。パソコンにはプロのクリエイターが使うAdobeのソフトも入っています。制作を行うのに、私たちはこれらの機器を使うことができます。
ほとんどの人が大学に入るまでにこれらの機器やソフトを使ったことがなく初心者の状態です。授業でさまざまな機材を触ったり、ソフトを使うことで使い方を覚えていきます。
授業で技術を身に着けることで、自分の作りたい作品を作れるようになります。自分の思い浮かべている作品を作れるようになることは、とても素敵なことだとは思いませんか？

♪ 音の発信で
想像力を創造する♪

News: 「地域社会とコミュニケーション」でラジオ番組制作！

地域とコミュニケーションを取るために授業内で行った。

ラジオ番組内容

「学食ランチの旅」他大学の学食レポ

- ・番組で紹介されていたのは、青山学院大学（相模原キャンパス）
- ・駅から口ヶをし、実際に青学までの道を町の様子を伝え、散歩しながら歩く。
- ・実際に自分たちが頼んだメニューの紹介や食レポ など

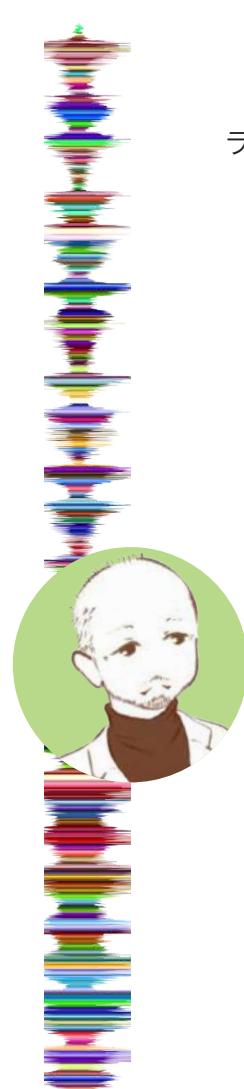


原先生に聞いてみました！

聴くメディアは、観るメディアとは違い映像がない分、リスナーに伝える料理の色や形を細かく説明し、補足しなければならない。また駅から歩いて町の風景や建物の様子など伝えることも大切。音楽や足音など他の音を加え、イメージを広げ、リスナーのイマジネーションを利用する。イマジネーションを利用することで、相手が想像する楽しみを作る。映像がないは聴くメディアならではの作品！

原ゼミの卒業研究は…

- ・CM制作
- ・広告制作
- ・アンデルセンの童話の原作とアニメ作品の違いについての研究
- ・モデルの日常を描いたドキュメント映像作品など研究、作成いろいろです。



授業を受けると見方が変わる！

田畠先生へのインタビュー

メディア情報学科で映像などを見ることに関する授業をしている田畠先生にインタビューをさせていただきました。

何を教えているか

「メディア文化論」、「映像文化」、「パフォーマンス論」、「メディア文化史」です。いろいろなメディアについて受ける（見る、聞く、作るの反対、受容する）側の立場で教え、学生も勉強しています。



メディアの授業を面白くしている工夫

学生と私の経験が違うので、感覚のギャップを確かめながら具体例を使うように心がけています。

卒業研究はどうやっているか

私が強く指導するよりは学生ひとりひとりのやりたいことを引き出すようにしています。オーダーメイドのように学生に合わせています。

おすすめな映画は？

自分が好きな映画という意味でなく、女子学生に薦めたい映画という意味で、『アデルの恋の物語』『シェルブルの雨傘』の2本を挙げたいと思います。

未来の大学生に伝えたいこと

大人になってから大学時代がいちばん楽しかったとは言って欲しくないです。

本当に楽しいのは大学を出たあとで、その未来のために勉強をして欲しいです。



メディア情報学科が持つ第6感とは・・・？

イマジネーションな学生 m. o さん（仮名）のサクセストーリー

とある高校に通っている m. o さんは多趣味で特にサブカルチャーな分野が大好き。

しかしそれは趣味で学術的ではないため、なかなか理解してくれる人が高校にはいませんでした。いつも1人で妄想をしていました。そんな時、この大学の広告を見てサブカルチャー、ショービジネス、映像についての先生がいて楽しく授業が出来ると知りました。m. o さんはこの大学に入り、それらの先生の授業をたくさん取りました。授業を聞くだけではなく映像を見たり、実際のものを使ったりして、退屈しない授業を受けて毎日が充実するようになりました。m. o さんは自分の趣味を学ぶことが出来、将来は好きなことで働くと決めて今でも一生懸命勉強をしています。そう！妄想を想像に変えることが出来たのです！さあ！今度はあなたの番です！一緒に勉強して、好きなことを人生にしていきませんか？

